

令和4年度 事業報告書

I. 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称

学校法人 山野学苑

②主たる事務所の住所等

住所：〒151-8539 東京都渋谷区代々木 1-53-1

電話番号：03-3379-0111 FAX 番号：03-3370-0008

ホームページ：<https://www.yamano.jp/>

(2) 建学の精神と教育理念

山野学苑は、初代山野愛子校長が提唱した「美道 5 大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）」を基に美容理論の追及、美容に関する知識・技能の教授・研究を通して社会や美容界で広く貢献のできるリーダーを育成するとともに、国際社会で活躍のできる人材の育成を目標とする。

(3) 山野学苑の沿革

- | | | | |
|------|---------|------|--|
| 1934 | （昭和9）年 | 4 月 | 東京日本橋に山野美容講習所設立 |
| 1948 | （昭和23）年 | 9 月 | 国際山野高等美容学院設立認可 |
| 1949 | （昭和24） | 12 月 | 財団法人山野高等美容学校設置者変更、設立認可
（理事長に山野治一就任、校長に山野愛子就任）
美容師養成施設として厚生大臣の指定を受ける |
| 1954 | （昭和29）年 | 12 月 | 学校法人山野高等美容学校設置者変更認可
（学校教育法第8条第3項準用の同法第4条の規定） |
| 1973 | （昭和48）年 | 12 月 | 学校法人山野学苑に法人名称を変更 |
| 1977 | （昭和52）年 | 2 月 | 学校法人山野学苑山野美容専門学校設置認可 |
| 1991 | （平成3）年 | 12 月 | 山野美容芸術短期大学設置認可（文部大臣） |
| 1992 | （平成4）年 | 4 月 | 山野美容芸術短期大学開設 美容芸術学科設置 |
| 1995 | （平成7）年 | 8 月 | （山野美容芸術短期大学学長に山野正義就任）

（山野美容専門学校校長に山野愛子ジェーン就任）

12 月 山野美容芸術短期大学 美容保健学科設置認可 |
| 1996 | （平成8）年 | 4 月 | 山野美容芸術短期大学 美容保健学科設置開設 |
| 1997 | （平成9）年 | 10 月 | 山野日本語学校設置認可 |
| 1998 | （平成10）年 | 4 月 | 山野美容芸術短期大学 美容保健学科 |

- (美容師養成施設に指定)
- 山野日本語学校開設
- (山野日本語学校校長に山野正義就任)
- 12 月 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科設置認可
- (介護福祉士養成施設に指定)
- 1999 (平成11) 年 4 月 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科設置開設
- 2002 (平成14) 年 12 月 山野医療専門学校認可
- 2003 (平成15) 年 4 月 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科
- (美容師養成施設に指定)
- 山野医療専門学校開設
- (柔道整復師養成施設に指定)
- (校長に山野正義就任)
- 2004 (平成16) 年 4 月 山野美容芸術短期大学 専攻科芸術専攻・社会福祉専攻開設
- 2005 (平成17) 年 2 月 山野美容芸術短期大学 専攻科芸術専攻大学評価・学位授与機構
認定
- 2007 (平成19) 年 4 月 山野美容専門学校校舎 M. YAMANO TOWER 竣工
- 2009 (平成21) 年 4 月 山野日本語学校大学 進学1年コース設置
- 2010 (平成22) 年 4 月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科設置認可
- 山野美容芸術短期大学 美容総合学科設置認可に伴う美容芸術学科・
美容保健学科・美容福祉学科募集停止
- 2011 (平成23) 年 4 月 山野美容芸術短期大学 美容芸術学科・美容保健学科・美容
福祉学科を改組
- 美容総合学科(美容デザイン専攻・総合エステティック専攻・
国際美容コミュニケーション専攻)開設
- 2012 (平成24) 年 4 月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科現代美容福祉専攻開設
- 2013 (平成25) 年 4 月 学校法人山野学苑総長に山野正義就任
- 学校法人山野学苑理事長に山野愛子ジェーン就任
- 山野美容芸術短期大学学長に山野愛子ジェーン就任
- 山野日本語学校校長に山野一美ティナ就任
- 2014 (平成26) 年 3 月 山野美容芸術短期大学 日本語別科開設
- 4 月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科 現代美容福祉専攻募集停止
- 2015 (平成27) 年 2 月 山野美容専門学校専門課程、文部科学大臣より

- 「職業実践専門課程」に認定
- 4 月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科 総合エステティック専攻を
エステティック専攻に名称変更
- 2017 （平成29）年 4 月 山野美容専門学校専門課程、文部科学大臣より
「職業実践専門課程」認定取り消し
- 2018 （平成30）年 3 月 山野医療専門学校募集休止
- 2020 （令和2）年 3 月 山野医療専門学校閉校
山野美容専門学校専門課程、文部科学大臣より
「職業実践専門課程」に認定
- 8 月 山野医療専門学校廃止届提出
- 2021 （令和3）年 4 月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科（専攻課程を廃止し、教育課程の統合に
よる学科改組）
美容デザイン専攻、エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻の
募集停止
- 2022 （令和4）年 4 月 山野美容専門学校 高等課程 募集停止
- 2023 （令和5）年 3 月 山野日本語学校大学 進学1年コース廃止

(4) 設置する学校

- 山野美容芸術短期大学 美容総合学科
専攻科 芸術専攻（募集停止）
日本語別科 （募集停止）
- 山野美容専門学校 美容専門課程
美容高等課程 （募集停止）
美容通信課程
- 山野日本語学校 大学進学準備教育 1年コース
大学進学準備教育 1年半コース
大学進学 1年コース（R5.3.31 廃止）

(5) 学校等の学生数の状況

（令和4年5月1日現在）

学校名		入学定員	入学者数 R4. 5. 1	収容定員 R4. 5. 1	現員数 R4. 5. 1	前年度 現員数 R3. 5. 1	新年度 現員数 R5. 5. 1
山野美容	美容総合学科	245	195	490	350	312	372
	専攻科芸術専攻	40	0	80	2	2	0

芸術短期 大学	日本語別科		60	0	60	0	0	0
山野美容 専門学校	美容専門課程		600	464	1,400	912	954	903
	美容高等課程		0	0	540	16	31	0
	美容通信課程		600	180	1,800	845	837	959
山野 日本語 学校	大学進 学準備 教育	1年 コース	100	102	100	102	3	192
	同上	1年半 コース	55	0	110	2	110	125
	大学進学	1年 コース	100	45	100	45	8	—

(注) 山野日本語学校大学進学準備教育一年半コースは 10 月入学の為、入学者数は R3. 10. 1 現在の人数

(注) 山野日本語学校大学進学一年コースは R5. 3廃止

(注) 山野美容専門学校通信課程は、4 月・10 月入学の為、上記入学者数は R4. 4. 1 入学者を記載

(6) 収容定員の充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
山野美容芸術短期大学	1. 06	1. 04	0. 75	0. 64	0. 71
山野美容専門学校					
美容専門課程	0. 72	0. 67	0. 66	0. 59	0. 65
美容高等課程	0. 05	0. 05	0. 04	0. 02	0. 03
美容通信課程	0. 45	0. 46	0. 49	0. 46	0. 47
山野日本語学校	0. 84	0. 84	0. 4	0. 4	0. 48

(7) 役員の概要 理事

理事の定数9名

	氏 名	就任年月日	常勤／ 非常勤	主 な 現 職 等
1	山野愛子ジェーン	平成7. 8. 8	常勤	(学) 山野学苑理事長・山野美容芸術短期大学学長・山野美容専門学校校長・(財) 国際美容協会理事長・山野流着装宗家
2	山野栄子ダイアン	平成25. 5. 28	非常勤	(学) 山野学苑学苑長、山野美容商事(株) 取締役

3	香川 美津江	平成12. 5. 26	非常勤	(財)国際美容協会理事・山野美容芸術短期大学兼任教員
4	村田 明彦	平成27. 8. 3	非常勤	東京ティーモス法律事務所
5	河東 まゆみ	平成25. 5. 28	非常勤	サロン・ド・エム経営
6	青木 和子	平成22. 10. 21	常勤	山野日本語学校校長、山野美容専門学校校長補佐
7	木村 康一	平成29. 5. 26	常勤	山野美容芸術短期大学教授
	福田 富雄	令和4年12月31日辞任		

(注) 寄附行為第6条3の規程により、理事の定数1名を減じている。

(学苑長、短期大学学長が理事を兼ねている)

監事の定数2名

	氏 名	就任年月日	常勤／ 非常勤	主 な 現 職 等
1	林 成高	平成20. 11. 5	非常勤	(有)ユー美容室経営
2	森岡 伸介	令和4. 9. 12	非常勤	森岡伸介公認会計士税理士事務所
	水野 孝平	令和4. 9. 12辞任		

(8) 評議員の概要

評議員の定数19名

	氏 名	就任年月日	主 な 現 職 等
1	山野愛子ジェーン	平成4. 5. 25	(学)山野学苑理事長・山野美容芸術短期大学学長・山野美容専門学校校長・(財)国際美容協会理事長・山野流着装宗家
2	山野栄子ダイアン	平成25. 5. 28	(学)山野学苑学苑長、山野美容商事(株)取締役
3	山野一美ティナ	平成12. 5. 26	元山野日本語学校校長
4	中川巧スタンリー	平成14. 3. 29	(学)山野学苑総括
5	香川 美津江	平成12. 5. 26	(財)国際美容協会理事・山野美容芸術短期大学兼任教員
6	河東 まゆみ	平成25. 5. 28	サロン・ド・エム経営
7	村田 明彦	平成27. 8. 3	東京ティーモス法律事務所
8	青木 和子	平成21. 8. 31	山野日本語学校校長、山野美容専門学校校長補佐
9	木村 康一	平成29. 5. 26	山野美容芸術短期大学教授
10	高清水 則夫	令和2. 6. 10	(財)国際美容協会顧問
11	鈴木 輝康	平成16. 4. 1	(学)タイケン学園日本ペットアンドアニマル専門学校 校長
12	杉浦 ゆり	平成21. 8. 31	美齡ケア（看護師・マッサージ師・美容師）

13	高橋 節子	令和2. 4. 1	(株) コメット・プロパティ代表取締役
14	三宅 政志公	平成27. 9. 15	元学校法人山野学苑事務局長
15	佐藤 美奈子	平成27. 9. 15	山野美容芸術短期大学教授、(学)山野学苑理事長補佐
16	多田 正明	平成27. 9. 15	(学)山野学苑企画課勤務
17	古山 正道	平成7. 8. 8	(学)山野学苑経理部長
	新藤 アイ	令和4年9月5日辞任	
	福田 富雄	令和4年12月31日辞任	

(9) 教職員の概要

(令和4年5月1日現在)

	本務人数	兼務人数	合計	平均年齢 (本務)	平均年齢 (兼務)	平均年齢 (合計)
山野美容芸術短期大学	46	141	187	49. 3	48	48. 3
山野美容専門学校	68	7	75	46. 8	41. 6	46. 4
山野日本語学校	13	16	29	39. 6	40. 4	40. 0
法人事務局	28	0	28	52. 4	－	52. 4

Ⅱ.事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

山野学苑は、昭和 9 年に東京・日本橋に美容師養成事業の端緒となる山野美容講習所を創立、昭和 2 9 年には学校法人山野高等美容学校を設立し、以来、美道 5 大原則を教育理念に今年で 8 8 年の歴史を迎える。

この間、国内最大級の美容学校である山野美容専門学校、我が国初となる美容の高等教育機関である山野美容芸術短期大学を設立、更には山野日本語学校を開設し、世界で活躍のできる人材の育成に努め、今日に至っている。

また、山野学苑は、日本で初めて「美容福祉」を提唱し、更に超高齢社会の諸問題を学際的に研究する「美齢学・ジェロントロジー」教育を普及・教授し、米国 USC や国内の大学等と連携をしながら、社会のニーズに対応した教育体制の整備を目指している。

各学校からの報告は以下の通りとする。

《山野美容芸術短期大学》

I 全般

1 建学の精神を具現化する学科改組の完成年度を迎え、更なる改善に向けた点検・評価

令和 3 年度（2021 年度）に専攻を統合(学科改組)し、履修コース制を採用する

抜本的な改革を行った。これは今後の社会情勢の急速な変化に対応し、将来的に持続可能な大学運営を行っていくために実施したもので、令和4年度はその完成年度となる。

専攻統合による学科改組は、「2040年に向けた高等教育のグランドデザインの答申」を踏まえたうえで、建学の精神である「美道」をよりアカデミックな観点で再構築し、「美道に基づく人間力の育成」を軸とした、本学の特色を最大限に活かし教育改革を行うものである。「美しく生きるために必要な能力を有し、美容を通じ広く国際社会に貢献しうる人材」を人材育成像とし、履修コース制とすることにより、これまでの専攻の横断的な学びを実現することと合わせ、新たな関連分野の学びにより、学びの広がりや深度をもった教育体系への再構築を目指したものである。

この学科改組の成果として、学生確保の回復に繋がっているものの、令和4年度にあっては昨年度に比し減少傾向が認められた。

この改善には、本学の独自性をより明確に示し、かつ学生の成長（学修成果）を成果として示すことが不可欠であり、この観点を基に改組プログラムの点検活動を行った。その結果、学修成果獲得を更に高めるためにはDPの深い理解が必要となるため、DP実現のカギとなる要素を端的にわかりやすく整理し、学生に「考えるクセ＝自ら考え決めることができる」を付けさせることが重要であると整理した。このことを実現するには、授業のみならず教職員全員の行動すべてを、一貫性をもって繋げていくことが重要となることから、教職員のマインドセットや授業実施のスタンスなどを示す、山野インストラクションスタンダードを更に徹底強化することとし、文言を理解しやすく整理するとともに最重要項目を明示した。FD/SDにおいては、この方針を徹底し、各教員の教育方法の改善及び、広報活動に繋げる研修を行った。

この他、専攻科芸術専攻においても、学科の完成年度を踏まえ改革に着手した。

専攻科芸術専攻は、これまで美容家の育成を教育目標としてきた。この度の改革において、教育目標を「美容技術やデザイン力を生かす創造力や表現力を身につけた「美容芸術」の社会実装に貢献できる人材の育成」とし、新たにカリキュラム改正を行う。この検討と変更申請のため、令和4年度は、募集を停止し、令和6年4月再開に向け検討を進めている。

2 教学運営

令和4年度は新型コロナウイルスの収束傾向に伴い、対面授業を完全実施することができた。

ただし、引続き感染防止の観点から、学生同士が交流するクラブ活動や学苑祭等の行事は外部者の入校は認めず、一部制約された環境下での教育活動となった。

組織運営としては、昨年度に図式化した教学マネジメント推進体制のもと、点検・評価を行い、自己点検・評価報告書を纏めた。

(1) 教育

教育にあつては、原則対面授業が実施でき、従来の姿に戻すことができた。

学習成果は、I R活動による学習時間・学習行動の実態把握、授業アンケートなどにより量的・質的に把握できるが、その結果から良好であったことが確認できた。

前年度から専攻統合を行い、コース制を採用したことからディプロマポリシー評価表（ループリック）を定めている。これは学生の学習到達度を細かく具体的にランク別に規定し、極力客観的評価の要素を加えたものであり、この活用により、個々の学生のディプロマポリシーへの到達度を具体的に示すことができた。

また、外部の標準化されたアセスメント・テスト（PROG）を引き続き実施した。令和3年度入学生から在学中に3回受検させ、ディプロマポリシー評価表（ループリック）と併せて利用し、学生への指導をより丁寧なものとした。

(2) カリキュラム

専攻統合に伴い、カリキュラム・マップを改定し、ゼミナールにおいて学生が自分自身の振り返りを行えるように見直しを行った。ディプロマポリシーの更なる理解につながるものと期待している。学生が本学での学びを理解し、学生自身が成長をより実感できるよう、今後も教育の質保証システムへの転換を目指して行く。

(3) 授業方法

令和4年度においては、既述のように新型コロナウイルス感染症の収束傾向を反映して、原則対面授業を実施した。

授業アンケートは年間2回実施した。結果は基本的に満足度が高かったが、一部の教員の授業で満足度の低いものがあったため、当該教員へ注意喚起を行い、改善を求めた。

この他に、本学の理念を実現するための授業スタンスなどを定めたインストラクションスタンダードを一部改訂し、FDSD研修会において、非常勤教員も含めた教職員全員に徹底した。

(4) 教員評価

教員評価にあつては、評価指標による厳正な評価を行い、優秀な教員への顕彰を行った。

昨年度の評価実施から、評価基準について一部見直しを行い、令和4年度実績の評価から導入する。

(5) 入試

オープンキャンパスにおいて、前年度同様、在学学生を主役に据えたことで、受験生の関心を高めることができた。また、在学学生自身もリーダーシップの

発揮やコミュニケーション能力の大幅向上など、彼らの成長につながることもあった。

加えて、Web サイトのリニューアルにより、教育内容の詳細を伝えることができた。

(6) 学生支援

学生支援としては、ゼミナールを中心に学生への丁寧な指導を徹底した。このことにより、中退・除籍率は従前より改善している。(退学率: 令和3年度 5.4%、4年度 5.7%) さらに、保健管理室と共に学生相談室を設け、看護師の他にスクールカウンセラー、精神科医が学生の様々な相談にのっている。

(7) その他

- ① 平成 28 年度認証評価の際指摘された事項への対応は以下のとおり。
 - 卒業生が就職した企業へ意見聴取した結果を文書として残し、教育方法・内容等の改善に活用すべき。
 - ➡卒業生が就職した企業へのアンケート調査を行い、その結果を IR 室が取りまとめて自己点検評価改善委員会に報告。その後教授会で審議を行った。
 - 事業活動収支が支出超過であるので改善することが望まれる。また安定した財務基盤を構築するよう、学校法人全体の中期計画を策定すること。
 - ➡中期計画は令和 2 年 3 月に策定済み。収支バランスの改善に取り組んでいるが、結果が出ていない。ただし、今後令和 6 年に向けて学生定員の確保を目指し、結果的に収支の改善が期待できる。
- ② 高等教育の修学支援新制度については、前年度に引き続き対象機関として認定された。

II 細部

1 教育内容

(1) 美容総合学科

建学の精神である「美道教育」を土台に、改組 2 年目として、令和 3 年度の振り返りのもと、様々な取り組みを行ってきた。具体的例として、DP の理解と実践のための積極的なゼミナール活動や必修科目に加え、7 つの領域の授業科目で習得した知識や思考を進路活動に繋ぐことができていた。また DP の総合力を得るための課外活動も実施することができ、結果一定の成果をあげていると評価できる。

ゼミナール活動として初年度教育の役割を担い、入学時のオリエンテーションにて、図書委員会と協働し、レポートの書き方、Google ドキュメントの使い方をレクチャーし、今後の各授業での課題提出等の学習支援を行った。

また、1・2年生が共に参加する合同ゼミを複数回実施した。目的は、横断的教育と縦断的教育である。横断的教育は、幅広く1年生同士の交流を促し、他者受容を促進した。縦断的教育として1・2年生間の交流を行い、1年生においては、学習成果での課題を2年生と共有することで、同学年生から得られない気づきを2年生から得ることができた。2年生においては、学習成果の振り返りを行うと共に、リーダーシップの習得にも繋がった。

学習成果を確認する取組みとして、DPをループリックに基づいて、スコア化を行い、履修科目で得た「気づき」をデータ入力している。学生へのフィードバックは、ゼミ担当教員や学生部会の教員が担当し、複数人から多様なフィードバックを学生が得ることで、モチベーションの向上に繋ぐことができた。

山野インストラクションスタンダードに沿った教学を実施していることで、各科目において習得できるDPを学生が理解していることが、授業アンケートからもわかった。

また、学生との面談は、学習成果がゼミ担当、進路面談は、キャリア担当の教員が実施することで、学生個々に寄り添ったサポートを実現できている。

(2) 専攻科芸術専攻

在籍学生(2名)に対し、本学の目的に則り、精深な専門知識と技術を教授し、美容芸術の広い分野で貢献しうる教育を行った。少人数であることから、授業は基本的に対面で行った。また2年生は学位申請を行うことを踏まえて、授業時間以外でも専攻科アトリエで申請に向けた作品制作に取り組み、学位面接試験合格に向けて、専任教員に加え非常勤講師もサポートを行った。

なお、令和3年度(2021年度)の学科改組を受けて、その学びが継続できる教育になるようカリキュラムの変更を検討することとした。変更に関しては学位授与機構の承認を得るための時間が必要なため、令和5年度(2023年度)は募集を停止し、令和6年度(2024年度)の開講に向けてワーキングチームを組織した。ワーキングチームで新カリキュラムの準備を行いながら、美容総合学科学生に向けた募集活動として説明会を行った。

2 卒業後の進路

(1) 美容師免許取得コース

区分	人数	割合
美容室	58	61.7%
化粧品	2	2.1%

アイラッシュ	7	7.4%
ブライダル	3	3.2%
エステ	3	3.2%
ネイル	4	4.3%
アパレル	1	1.1%
その他業界	7	7.4%
進学	1	1.1%
留学	2	2.1%
上記以外進路	6	6.4%
計	94	100.0%

(2) インナービューティコース

区分	人数	割合
エステ	5	22.7%
化粧品	2	9.1%
ブライダル	1	4.5%
その他業界	8	36.4%
進学	2	9.1%
留学	1	4.5%
上記以外進路	3	13.6%

計	22	100.0%
---	----	--------

(3) グローバルキャリアビューティビジネスコース

区分	人数	割合
エステ	1	6.7%
化粧品	1	6.7%
ネイル	1	6.7%
アパレル	1	6.7%
その他業界	3	20.0%
進学	2	13.3%
留学	1	6.7%
上記以外	5	33.3%
計	15	100.0%

(4) 専攻科

区分	人数	割合
美容室	1	50.0%
ブライダル	1	50.0%
計	2	100.0%

3 キャリアサポート

(1) キャリア支援センター

① 1年生必修科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」との連携

令和3年度新入生より、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」にて全コースの学生が必修で学ぶ授業を実施している。令和4年は未だ続くコロナ環境下ではあるが、対面型授業を展開した。授業は「自分を知る」、「社会を知る」、「未来を描く」を目標とし、特に「自己分析」と「企業研究」の重要性にスポットを当て、進路実現に向けて学生自らが深く自分を知り、希望の企業内容を理解するために行動する力を修得している。

前年度の取り組みと比較検討し、PDCAサイクルを廻して実施した成果が以下の通りである。

OB・OG講演・企業講演の内容・回数を増やし、より社会との関わりを意識した授業を展開。先輩の就活体験情報や企業担当者による企業が望む人材像や業界特徴等、多くの活きた情報を直接学生に伝えられた。

②社会人基礎力外部指標（PROG指標）の活用

社会人基礎力を測定するPROGを3年前から導入している。更に令和3年度より、入学直後、1年生終了時、及び卒業時の3回測定実施している。PROG導入により本学学生の社会人基礎力の特徴及び伸長度合いを可視化し、1年間での成長及び2年生は短大在籍中の成長を測定できる。更に他大学（私立4年生大学並びに私立短期大学）との比較も可視化できる。

このように外部指標により2年間の教育を通じて学生自身の能力の成長進捗が可視化でき、自己を知り社会で活躍するために必要な能力を認識して活動することが可能になった。

また在学中のキャリア支援において、授業内容の構築や、個人面談における個人基礎情報としてPROGデータに基づいて、個に合わせた質の高いキャリアサポートが展開できたと判断。

③進学（4大編入）支援の強化

本学学生進路の幅を広げる活動として、編入学への取り組みを更に強化した。特に一般編入への取り組み強化にあたり、外部編入予備校（中央ゼミナール）と連携を強化し下記内容を推進。

- ・編入学相談会を複数回実施
- ・編入基礎講座（①編入英語講座2回+小論文講座2回の4回コースを2回：①にTOEIC対策講座1回を加えた5回コースを1回）を年間計3回実施、
- ・個人面談実施（キャリア支援センターで随時面談を行い、また各編入講座終了後に中央ゼミナールの個別面談を実施し、個別サポートの強化を徹底）

令和4年度は4大編入希望者3名（一般編入・指定校推薦編入）が合格を果たした。

（2）インターンシップ

令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防に配慮しつつ、本学主催のリアルインターンシップを実施した。具体的な取り組み内容を以下のとおり。

①企業訪問型インターンシップ

8月、9月2か月にわたって企業訪問型インターンシップを実施
期間も1日～3日短期と1か月長期インターンシップを実施し、企業から高い評価が得られた。

- ・一般企業17社・美容室7社計24社に協力していただき、昨年実績の12社に比し倍の規模で展開した。
- ・新規参加企業が10社と41.7%を占め、幅広い業界へのインターンシップが実現した。
- ・参加者は70名（内インナー6名、グローバル8名）と参加率35%であった。

②複数大学・複数企業合同1 dayインターンシップ

- ・本学学生他4年制大学7校の学生計37名が参加し、参加12企業とZOOMを活用したWEBインターンシップを実施した。
- ・学生が全体講習の後、各企業に分かれて企業採用担当者から個別説明を受け、また社会人として働くとの意義や企業が求める人物像について学んだ。更に面接や意見交換会を実際に体験することができた。

以上2インターンシップにより、教育的インターンシップとして下記成果を上げることができた。

- ・進路に向けた様々な可能性を探る
- ・社会人、企業実務を体験することで就活や働くことへのリアリティを体得
- ・成功体験、失敗体験を次の活動に活かせる
- ・他大学学生との交流体験

4 正課外活動・地域連携等

令和4年度キャリア支援センターによる正課外活動・地域連携の申請窓口の一本化が更に進み、課外活動の可視化ができた。新型コロナウイルス制限緩和により、リアル活動割合が再び高まり 95%がリアル活動であった。特筆する活動としては、インターンシップやオープンキャンパス活動の他、学外イベント（東京ガールズコレクション、ローズプロジェクト、ICTを活用した世代間交流など）、課外プロジェクト（美容動画プロジェクトや企業訪問プロジェクト、地域貢献プロジェクトなど）や課外講座（美容オンライントレーニング、学外サロン講習など）など、延べ総数105の課外活動の申請があり延べ800名以上（昨年2倍）の学生参加があり活性化している。すべての活動をDPの観点から計画するよう活動しており、具体的には学生のDP2:主体的行動力、DP3課題解決力が培われると共に目標であるDP6:美しく生きる力を実践できる能力の育成にも大きく寄与している。

5 学生募集

令和5年度入学者獲得のため、オープンキャンパスを在学生在が主体となる企画構成とし全32回開催した。内訳は来校型14回、オンライン型12回、オンライン入試対策講座5回、オンライン高校教員対象学校紹介1回であった。その他、高校訪問、校内・会場進学ガイダンス及びWebリスティング広告、SNS等を活用し、美道をベースとした学びの内容を授業紹介動画や学校案内を通じて周知を図り、ブランディングの確立を目指した。令和5年度の入学者数は次のとおりである。

(1) 本科（令和5年度入学者）

	入学者	入学定員	充足率(%)
美容総合学科	175 (1)	245	71.4

注：() 内数字は、留学生を示し、内数を表す。

(2) 専攻科

令和5年度募集停止

(3) 日本語別科

募集停止

6 生涯学習等

生涯学習講座としては、地域にある大学コンソーシアムに参画し、八王子市主催の「いちよう塾」において、建学の精神にある美道を軸に「美齡講座」を開講した。提供講座は合計19講座。受講生は206人だった。

7 防災・危機管理

「面接授業実施に際しての新型コロナ感染防止に関するグランドルール」を徹底するため保護者にコピーを配布し、理解と協力を求めた。

防災訓練は、ここ数年新型コロナウイルス対応で学生全員を対象にしたものは難しかったが、3年ぶりに避難訓練を実施することができた。次年度以降は定期的に全学での訓練を実施したい。

8 外部資金の獲得

高等教育を担う本学は、学生への教育は当然として、研究活動への注力も大きな任務である。財務的な制約がある環境下、外部からの研究資金獲得は非常に重要である。

令和4年度の科学研究費は研究代表者1件で直接研究費¥1,265千円（前年度から繰越）、分担者で直接研究費¥362千円（前年度から繰越）であった。引き続き科学研究費獲得に向けて、教員への支援を継続する。

《山野美容専門学校》

1. 学生数

昨年と同様に新型コロナウイルスの感染が続く中ではあったが、あくまで対面授業を主体に、感染ピーク時には一部オンライン授業を組み合わせで展開した。さらに、このような厳しい状況下だからこそ、ほぼ全ての年間行事やイベントを復活させるとともに、年末にかけて2度にわたって海外研修旅行を行うなど、高校時代から自粛を続けてきた学生にとって新たな見聞や体験、そして挑戦の機会を拡げて満足度の向上に努めた。

一方、退学率は9.6%と、昨年から1.3ポイント低下した。退学の理由は例年と同様、①進路変更、②体調不良・精神疾患が上位だが、その原因は①学生同士あるいは教員との人間関係の悪化による悩み、②入学前からの精神疾患の再発や重症化などがあげられる。これらに対応するため長期休暇後に退学者が増えることを考慮し、1年生、2年生ともに欠席時間数が多い学生を対象に夏休み前に担任教員、教頭に副校長も加わって個人面談を実施し、原因の究明と対策、そして激励に努めたことにより、1年生の退学者数は大幅に減少した。今後も継続していくことはもちろん、入試面接時の基礎学力と症状把握、入学後は、ダッシュボードによる出欠席状況の通知と同時に、日常的に教員、保健師、カウンセラー、保護者間の情報共有を更に密にして、早期の発見と対応をすることが更に求められている。

課程		入学者数 4月在籍者数	退学、転出 除籍者数	卒業延期 留年者数	卒業 進級者数
専門課程	72期以前	14名	8名	0名	6名
	73期	431名 (復学3名含む)	32名	10名	384名 (他、休学5名)
	74期	466名 (復学3名含む)	36名	0名	412名 (他、休学18名)
高等課程	125期以前	2名	1名	0名	1名
	126期	14名	1名	0名	13名
通信課程		4月入学180名 10月入学121名	73名	—	卒業191名
		在籍969名			進級589名

退学率推移、学年別内訳（専門課程）

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
退学率	14.2%	9.9%	7.7%	10.9%	9.6%
学年内訳	1年106人	1年74人	1年61人	1年78人	1年44人

	2 年 57 人	2 年 32 人	2 年 20 人	2 年 25 人	2 年 44 人
--	----------	----------	----------	----------	----------

2. 入学者数

2022 年度の専門課程の入学者数は前年度比 8 名の増加となり、長年続いた減少傾向に一先ず歯止めがかかった。但し、期待した首都圏 1 都 3 県の入学者数は、東京都内が 15 名増加したものの、他の 3 県が 38 名減少した。一方、首都圏以外の地方が 31 名の増加に転じたことも増加の要因といえる。但し、これまで首都圏以外は新型コロナの影響によらず減少傾向が続いており、今後とも大幅な増加は望めないと考えられるため、定員充足をはかるためには、東京都内を中心に、首都圏で合計 450 名を目指す必要があるが、非常に高いハードルである。

もう一方の柱となる通信課程については、毎年 4 月生 180 名、10 月生 120 名、合計 300 名前後の学生を確保できているが、2023 年度 4 月生は 252 名の入学者となった。近年の通信課程への見方・評価の変化、リカレント教育の推進等が追い風になったことはあろうが、土曜日コースの新設による増員(51 名)が大きく影響した。その背景には、初めて実施した YouTube 広告やサロン向けの広報活動、在校生に専門課程の学生と同様にイベント参加の機会を与えたり、国家試験対策授業を充実したりしたことで、良い口コミが流布されたことも影響している。

課程	ガイダンス回数	OC 回数	来校者数	2023 年度出願者数	2023 年度入学者数
専門課程	383 回	41 回	1084 人 (オンライン含む)	498 名	473 名
高等課程	校内 : 348 回			—	—
通信課程	会場 : 35 回			381 名	373 名

※通信課程入学者は、2021 年 10 月・2022 年 4 月入学者計とする。

入学者数推移

課程/年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
専門課程	548 名	574 名	494 名	483 名	463 名	475 名
通信課程	283 名	300 名	333 名	280 名	301 名	373 名

※同一課程内の復学者を除く

専門課程 地域別入学者数推移

地域 / 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
東京都内	82 名	130 名	105 名	131 名	111 名	124 名	111 名	126 名
首都圏 3 県	257 名	210 名	208 名	230 名	189 名	189 名	230 名	192 名
首都圏以外	294 名	259 名	235 名	213 名	197 名	170 名	126 名	157 名

3. 美容師国家試験

専門課程の国家試験合格率は春期実施分では全国平均 91.1%に対して 97.2%、前年度比で 1 ポイントの減少となったが、国際文化国分寺、日美、早稲美、ベルエポ

ックといった学生募集上の競合校を全て上回り、例年通り関東地域では最多（全国2位）の合格者数となった。

一方、今期も学科・実技とも100%の合格率を目指したが、実技試験は98.9%（不合格者2名）、学科試験97.9（不合格者6名）の合格率となった。

また、高等課程は最後の卒業生13名の受験であったが、残念ながら1名が学科試験で不合格となった。通信課程は前回比で合格率が1ポイント低下したが、受験生がほぼ倍であったことを考慮すれば、受験対策が奏功したと言えよう。本校では毎年、山野愛子ジェーン校長以下の全教職員が全学生合格を共通の目標とし、実技、学科ともに早い時期から習熟度に合わせたクラス分けを行ってきた。また、成績下位の学生に対して集中的に指導している。この間に蓄積できた合格へのノウハウに磨きをかけるためにも、先生個々人のノウハウを全体で共有しブラッシュアップを繰り返していきたい。

課程	受験者数	学科合格率	実技合格率	合格率全体
専門課程	385名	97.9%	98.9%	97.2%
高等課程	13名	92.3%	100%	
通信課程	90名	81.1%	86.6%	75.6%

国家試験合格率推移

課程	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
専門課程	94.8%	93.9%	90.2%	92.2%	98.2%	97.2%
全国平均	91.1%	91.3%	90.0%	90.1%	95.4%	91.1%

※2022年度 専門高等課程 新卒、春期のみ

4. 卒業後の進路

コロナ禍の終息に伴って、サロンの求人もほぼコロナ前の状況に戻ってきた。採用が低迷していたブライダル産業、美容部員等の求人状況も回復している。

このように美容業界全般の求人が回復傾向にある中、今年度も100%の内定率を獲得することができた。また、第一希望のサロン等に内定した学生は71%と、一昨年の61%、昨年の66%を上回る結果となった。これは、全学生の就職活動状況をデータ化し、担当教員と個別学生の情報共有を図りながら個別の指導を強化した成果と考える。また、1年生の内からの早期のキャリア授業や個別相談を実施、コロナ禍で中止していた合同サロン説明会を開催するなど、積極的に就職指導をしたことも影響したと考える。

尚、今年度も人気の高いサロンへの就職が決められたのは、卒業生との積極的な交流と、内定者ガイダンスなどを学内で開催した成果であり、山野の卒業生の幅広いネットワークが、就職活動に大きな支援となっていることは間違いない。但し、これまでと比べて有名サロンへの就職を志望する学生は減少傾向にあることは興味深い。個別相談の際に学生一人ひとりの性格や特性を考えた指導を行っていることも

含めて色々な要因が考えられるが、身の丈に合った就職をすることで、末永く美容業界で堅実に活躍してくれるのであれば良い選択といえよう。

今後の課題としては、アフターコロナにおける就職サポートの在り方である。規模を限定して開催した合同サロン説明会については、さらに積極的に行う方向で調整している。また、インターンシップの積極的運用も行いたい。今年 2 月には在校生のおよそ半数近くの 175 名を 18 社にお願いをしてインターンシップを実施した。この経験から既にインターンシップ先から内定をいただいている例もある。

さらに、もう一つの課題は、卒業生に対する転職のフォローアップ体制の確立である。さらなる充実と拡充に努めていきたい。

《山野日本語学校》

1. 学校の概要

(1) 設置コース

コース名	入学時期	定員
大学進学準備教育 1 年コース	4 月	100 名
大学進学準備教育 1 年半コース	10 月	110 名
日本語一般 1 年コース	4 月	100 名

(2) 教職員数

	専任	増減	非常勤	増減
教員	7 人	0	36 人	24 人
職員	人	0	1 人	0 人

(3) 生徒数（下段は昨年）

コース名	生徒数	定員充足率
大学進学準備教育 1 年コース	159 人 (3 人)	159%
大学進学準備教育 1 年半コース	172 人 (95 人)	156%
日本語一般 1 年コース	55 人 5 人	55%
計	386 人 (103 人)	125%

(4) 生徒数（地域別人数）

中国	288	ベトナム	8	ウズベキスタン	5
カンボジア	4	フィリピン	4	英国	4

アメリカ	3	台湾	3	ミャンマー	2
モンゴル	2	カタール	2	オーストラリア	1

2. 事業の概要

- (1) 山野日本語学校はわが国の大学、専門学校へ進学するための日本語教育及び基礎教育を行う、大学進学準備教育1年コース及び大学進学準備教育1年半コースとわが国の大学、専門学校への進学するための日本語教育を行う日本語一般1年コースを設置している。

日本語能力試験の状況（ ）内は全国平均

N1	41% (27%)
N2	53% (29%)
N3	57% (35%)

進学状況（ ）カッコ内は昨年

大学院	大学	短期大学	専修学校
31人(17)	26人(35)	1人(5)	46人(37)

※ 主な進学先

大学院：千葉大学、筑波大学、東京藝術大学、名古屋大学、群馬大学、横浜国立大学、京都市立芸術大学、愛知県立大学、青山学院大学、中央大学、慶応義塾大学、早稲田大学、明治大学、立教大学、立命館大学、京都情報大学院大学、城西大学、東京工科大学、東京工芸大学、東京福祉大学、日本大学、文化ファッション大学院大学、武蔵野美術大学、京都情報大学院大学

大 学：中央大学、東洋大学、フェリス学院大学、女子美術大学、武蔵野美術大学、大東文化大学、関西大学、拓殖大学、神戸親和大学、城西国際大学、別府大学、流通科学大学、青森大学、神奈川大学、東京福祉大学、東京国際大学

- (1) 日本語教育のみならず、日本の文化や風習、日本人の考え方を理解することも重要視し、同学苑内の山野美容芸術短期大学、山野美容専門学校と積極的に交流を行った。
- (2) 「日本語能力試験合格率 50%を目指すプログラム」の3年目として、更なる結果が出た。
- (3) コロナ禍による入国制限の解除により入国者数が大幅に増加した。

(2) その他

① 学校法人の管理運営における問題について

今年度初めに、学校法人の管理運営について、ガバナンス及びコンプライアンスの観点から適正を欠く状況があったことが判明し、直ちに文部科学省に報告及び相談を行い、外部の独立した委員によって構成される第三者委員会を設置し、調査を実施した。当学苑は、第三者委員会による調査報告書を受け取った後、当学苑と関係のない外部有識者によって組織される再生委員会を設置し、学苑の再生に向けて、さらなる調査、損害の回復、原因の究明、責任の所在と処分及び再発防止策の策定を進めてきた。

当学苑としては、これまでの運営を深く反省し、その改善を徹底することとし、事実の認定及び損害の回復、原因の究明及び責任の所在と処分、再発防止策としての山野学苑の改革及び「新生山野学苑」としての出発をまとめ、文部科学省にも報告したうえ、情報公表させていただいた。

本件については、当学苑の学生、保護者、受験生、卒業生をはじめとするすべての関係者に、ご心配とご迷惑をおかけすることになり、深くお詫び申し上げるとともに、今回のような事態を二度と招くことがないように、今後は、ガバナンス体制を整備し、コンプライアンスを強化し、透明性の高い経営を行い、社会的責任の大きい学校教育機関としての責務を全うして参る所存である。

なお、当学苑は、日本私立学校振興・共済事業団から私立大学等経常費補助金の交付を受けていたところ、令和４年度補助金については、法人の管理運営が適正を欠いていたという判断にて交付されないとの通知を同事業団から受け取っている。

② 山野美容芸術短期大学の設置者変更

令和４年度の事業計画において、令和６年度を目途として山野美容芸術短期大学の設置者変更を進める旨計画したが、上記のとおり、今年度初めに判明したガバナンス及びコンプライアンスに関する問題についてまず対応することとする。

Ⅲ.今後の課題

まずは、この度の学校法人の管理運営における問題について、再発防止策に基づいた組織体制の改善について徹底して進めていく。

また、１８歳人口が加速度的に減少する社会において、今後、安定的な法人運営を行っていくためには、教育機関として内部質保証体制を整備し、教学マネジメントによる教育の質保証を向上させることはもとより、新たな事業展開を早急に計画する必要があると捉えており、この度の法人運営の改善を契機に改革の検討を進めていきたい。新たな事業展開にあっては、現在の国内１８歳人口をターゲットとする学校運営という教育事業にとどまることなく、今ある資源を最大限に活用した計画も含め検討を進めることとしたい。

学校法人の事務組織

2022年4月1日現在

